

# 自立活動だより

紀北支援学校自立活動部 平成29年度7月号

## 自立活動における抽出指導～セクション1（健康の保持・身体の動き）から～

今回の自立活動だよりは、セクション1（健康の保持・身体の動き）の指導の中から、座位保持装置について書きたいと思います。本校には座位保持装置を使用している児童生徒がたくさんいます。なぜ、彼らは座位保持装置を使っているのでしょうか？座位保持装置を有効に使うために気をつけなければならない点は？など、抽出指導の視点から見えることを書きたいと思います。

### 1 座位保持装置って何？

厚生労働省の定義では、「体幹および四肢の機能障害により座位姿勢を保持する能力に障害がある場合に用いられるものである。」とされています。簡単に言うと「身体の障害のために自分の力で座ることができない人が座位姿勢を保つための道具」のことです。

### 2 座位保持装置の主な目的

- ①生理機能の向上が期待できる。
- ②様々な反射や筋緊張を抑制し、リラックスを導くことができる。
- ③変形・拘縮の予防ができる。
- ④日常生活動作の改善がみられる。
- ⑤認知面等の改善がみられる。

### 3 座位保持装置の種類

ここではシートによる分類とその利点・欠点について説明します。

#### シートの種類による分類

①平面形状型（モジュラー型）：身体に合わせて、様々な部品を使って調節をするもの。



- 利点：姿勢に合わせて調整が行いやすく、部品の交換で成長にも対応できる。
- 欠点：部分的な支えになるのでトータルフィッティングが行いにくい。

②モールド型：身体に合わせてウレタンスポンジ等を削って作製するもの。

- 利点：適合性が良い。どんな身体の形にも合わせられる。
- 欠点：成長に対応しにくい。形により移乗しにくいときもある。



③張り調整型：シートの背もたれや座面がマジックテープ等になっていて、その張り具合で身体に合わせて調整するもの。



- 利点：姿勢の変化に合わせてすぐに簡単に調整できる。
- 欠点：保持面の支えが弱いため、活動のための支点になりにくい。

## 4 座位保持装置の使用に際し気をつけること

### ①きちんと座る

- ・骨盤を奥まで入れ、左右対称に体重を乗せる。
- ・体幹も背もたれのクッションに沿うよう整える。
- ・頭部の向き、角度も確認する。

### ②ベルトを留める

- ・特に骨盤ベルトをしっかり止めることが大切です。

### ③洋服もきちんと正す

- ・背中がめくれているいたり、しわが寄っていないようにする。

### ④机をつける

- ・机は字や絵を書いたり、教科書等を乗せるためだけのものではなく、一番重要な役割は腕の重さを支えることです。

### ⑦座位保持装置を押す際は

- ・基本的な押し方は車いすの場合と同じですが、座位保持装置を押す場合は、必ず背もたれを少し後方に傾けてください。座位保持装置を使用している子どもたちの多くは、自力で座位を保持することが苦手です。その子どもたちが、座位姿勢で移動するのですから、非常に不安定になり、姿勢が崩れ、頭部や頸部に負担がかかります。

### ⑤座らせっぱなしにしない

- ・座位保持装置は、その子どもの身体に合わせて作られていますが、子どもの姿勢や身体の変化にその都度合わせてくれる訳ではありません。姿勢が崩れ、子どもが自分で直せない場合は、先生方が直してあげてください。
- ・また、たとえ良い姿勢で座ることができていても、同じ部位に圧力が掛かり続けることになるので、30分に1回程度は姿勢を変え、体重が掛かる場所を変えてあげてください。

### ⑥座位姿勢の観察

- ・座位保持装置に座っている姿勢の観察をしてください。「頭がヘッドレストから落ちやすいなあ」「身体が傾いているなあ」「手が使いにくくなっているなあ」など、子どもの様子に変化が出たときは座位保持装置が合わなくなっている場合があります。

## 5 おわりに

座位保持装置が発明されたことで、今まで寝たきりで座位を取れない子どもたちが、負担なく座ることができ、色々な奥行きのある景色を見ることが当たり前になりました。しかし、きちんと座位保持装置に座ることができていないと、しんどくなるのはもちろんのこと、その子の持っている能力を失わせることにつながりかねません。日々関わる教師としては、まずきちんと座らせることが基本であり、次に姿勢の観察ができることが大切だと思っています。それができてこそ決して安価ではない座位保持装置をその価値に見合った活用ができると思います。

最後に、最近のこの暑さの中において思うことですが、本校に多いモールド型座位保持装置の欠点は、「成長に対応しにくい」と先ほど書きましたが、夏限定でいえば最大の欠点は、暑いことではないでしょうか。現在、クールファン（背もたれについているファン）がついていてそれで対応していますが、もっと涼しい工夫ができないかなと思います。クールシートなどを背もたれに敷いていることも多いですが、姿勢面からいうと崩れやすいので、あまりおすすめはできません。でも体温が上昇しているときは背に腹は変えられないですね。姿勢も崩れず、涼しくなる何か良いアイデアがあれば良いのですが。。